

氏名	菅 田 研 一
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2152号
学位授与の日付	平成13年3月25日
学位授与の要件	医学研究科外科系耳鼻咽喉科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Genetic Alteration of Penicillin Non-Susceptible <i>Streptococcus pneumoniae</i> Observed throughout Recurrence of Acute Otitis Media Detected by Amplified Fragment Length Polymorphism Analysis (反復性急性中耳炎にみられるペニシリン非感受性肺炎球菌 の遺伝子的変化についてのAFLP解析を用いた検討)
論文審査委員	教授 小熊 恵二 教授 小出 典男 教授 清水 憲二

学位論文内容の要旨

近年、ペニシリン非感受性肺炎球菌(PNSSP)の増加による急性中耳炎の反復・難治化が問題となっている。頻回の抗生剤暴露がPNSSPのリスクファクターであることが知られているにもかかわらず、反復性中耳炎症例では抗生剤が繰り返し投与されることが多い。今回我々は急性中耳炎を反復する過程で肺炎球菌株がどのように変化しているかを調べるために、反復性中耳炎11症例について、一回のエピソードから採取された肺炎球菌株についてそれぞれ *pbp* 変異、血清型、および、AFLP解析について比較検討した。その結果、血清型と *pbp* 変異に変化が認められたのは2症例(18.2%)であった。また、AFLP解析では6症例(54.5%)で遺伝子型の異なる肺炎球菌が検出されていた。以上のことから、急性中耳炎反復症例でも、前回の起炎菌の残存が常に次のエピソードの起炎菌となっているわけではないことが示唆された。

論文審査結果の要旨

本論文は、急性中耳炎を反復する過程で肺炎球菌株がどのように変化しているかを調べるために、反復性中耳炎11症例について、一回のエピソードから採取された肺炎球菌株について、それぞれペニシリン結合蛋白質の遺伝子の変異(*pbp*変異)、莢膜の血清型の変化、および Amplified fragment length polymorphism analysis (AFLP解析)による染色体遺伝子の型の変化(タイピング)について比較検討したものである。血清型と *pbp* 変異に変化が認められたのは2症例(18.2%)であり、また AFLP解析では6症例(54.5%)で遺伝子型の異なる肺炎球菌が検出されていたことから、急性中耳炎反復症例でも、前回の起炎菌の残存が常に次のエピソードの起炎菌となっているわけではないことを示唆した。

よって、本研究は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。